

東京民医連

新潟中越地震支援一コース

2004年10月27日

No. 5

発行：東京民医連

新潟中越地震対策本部

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

現地速報 「全国の民医連から寄せられた物資は確実に地域の人々を支えています。地震と大雨、避難されてる方にはつらい状況が続いています」

25日午前：新潟から報告です。午前は長岡市の診療所で地域訪問を行いました。現在も余震は頻回にあり、家の外で過ごしている人々が多くいらっしゃいました。崩れているレンガやひび割れた道が目立ちます。「ショートステイの母が今日帰るが家が大変でどうしよう」「家の中にいると危ないから外で生活している。でも明日から雨で心配」「ガスが使えないから外で七輪を使っている」「夜は余震で寝れてない」などの声が寄せられました。割烹屋さんは皿がすべて割れ営業不能。中には電気ガス水道が通っていない家もあり大変そうでした。

25日午後：午後は別の診療所へ移動して、地域訪問を行いました。僕らも、今いる地域の様子しか分からぬのですが、ここ長岡市の神田診療所の近辺は比較的被害はまだマシな様に感じます。といっても電気水道が復旧したのは昨夜、ガスが復旧したのは今日という厳しい状況なのは変わりません。隣の山古志村の被害はとてもひどいらしいです。ここ長岡には避難してくる人が4万を超えているとのことで、その多くが山古志かららしいです。看護師は、体育館や公民館に避難されている方々の医療支援や健康相談に行ってました。

地域訪問を行ったことで、地域の方々に水・食料などの支援物資を診療所で配布している情報が入ったようです。全国から寄せられた物資が必要としている方々の手に渡りました。また、別の避難所では食料が充分に行き渡らず一日一食しかでない避難所もあり、急遽診療所から物資を送ったそうです。全国の民医連から寄せられた物資は確実に地域の方々を支えています。また診療所に隣接するデイサービスでは地域にお風呂を解放。ガスの復旧が追い付かない方々にはとても喜ばれています。

26日午前：昨夜、生協かんだ診療所に泊まったのですが、夜中にも何回か体感する地震がありました。大きな余震がくる危険がまだあるとのことです。朝から水や食料を受け取りに来る方も多くいらっしゃいました。近所のコンビニも品物が揃いはじめました。昨日の夕方には強い雨もあり、通行止めになった道路もあります。地震と大雨、避難されている方々には辛い状況です。今朝も曇っていて、朝から冷え込んでいます。これからまた地域訪問に行ってきます。

現地に東京民医連からの支援部隊が続きます

10月27日～29日

中野共立病院：H医師、N看護師、S看護師、H事務職員

10月27日～30日

大田病院：N医師、H放射線技師

クリニックふれあい早稲田診：S看護師

王子生協病院：K医師、H医師、Y看護師、Y事務員

北病院：A看護師 東京ほくと：M本部職員

10月28日～30日

代々木病院：O医師、O看護師、S事務職員

東葛病院：O事務職員、M看護師

東京健生病院：N医師、他 看護師、事務 各1名参加予定

“困難あるところに、民医連あり”ともに頑張りましょう